

## 令和4年度第1回シンポジウム

# 廃棄物処理システムにおける脱炭素・省CO<sub>2</sub>対策普及促進に係るシンポジウム

2022年12月12日

環境省

廃棄物資源循環学会

【趣旨】 2050年までのカーボンニュートラル達成に向けて、廃棄物分野では、一般廃棄物の焼却や埋立処分に伴う直接的な温室効果ガス排出の抑制のほか、収集運搬過程における燃料使用や、中間処理施設等の稼働に伴う電力使用等によるエネルギー起源CO<sub>2</sub>等の排出抑制等を総合的に講じていく対策が求められている。また、脱炭素化は、同時に第5次環境基本計画（平成30年4月閣議決定）で提唱された地域循環共生圏の創造と合わせて進展していくことが必要である。

こうした中、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」（略して「プラスチック資源循環法」）が令和4年4月1日から施行された。プラスチック資源循環法では、製品の設計からプラスチック廃棄物の処理までに関わるあらゆる主体におけるプラスチック資源循環等の取組（3R+Renewable）を促進するための措置を講じるものであり、この取り組みにより資源循環の高度化に向けた環境整備・循環経済（サーキュラー・エコノミー）への移行が促進されることが期待されている。また、同法の効果的な活用により、従来、焼却処理中心であった製品プラスチック類についてもマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルへの道筋が定着し、この結果、廃棄物分野における脱炭素化も大きく進展する可能性がある。一方で、分別収集を担う市区町村では、分別収集や再商品化のための様々な工夫を講じていくことが必要である。

第1回シンポジウムでは、プラスチック資源循環法の施行に合わせて、同法の活用に関連するステークホルダー等から取り組みに関する御報告を頂き、パネルディスカッションによりプラスチックリサイクルを軸とした廃棄物分野における脱炭素化及び地域循環共生圏形成に向けた地域間・主体間の連携や効果的なシステム等について、多角的視点から意見交換を行うものとする。

【主催】 環境省、廃棄物資源循環学会

【日時】 2023年1月17日（火）13:30～17:00（会場受付は13:00より開始）

【会場】 京都リサーチパーク（4号館：バズホール）

【交通】 JR 嵯峨野線 丹波口駅。京都駅からの直行バス便あり

【開催方法】 ハイブリッド型式（WEB：ZOOMを使用）

【定員】 会場：200名（事前申込み制）、WEB参加：300名 自治体関係者を優先。

【参加費】 無料

【参加申込】 学会ホームページ（[https://jsmcwm.or.jp/?page\\_id=27879](https://jsmcwm.or.jp/?page_id=27879)）からお申込みください

### 【プログラム】

13:30～13:35	開会の挨拶	学会会長 大迫政浩（国立環境研究所） 司会・進行 学会副会長 秩父薫雅（㈱神鋼環境ソリューション）
13:35～14:05	プラスチック資源循環法について（30分）	水谷努 氏（環境省、リサイクル推進室長）
14:05～14:35	プラスチック資源循環法におけるリサイクル手法について（30分）	吉岡敏明 氏（東北大学大学院、環境科学研究科教授）
14:35～14:55	製品プラスチック一括回収・リサイクルの取組みについて（20分）	沼田和之 氏（仙台市、環境局廃棄物事業部長）
14:55～15:15	リサイクル事業者におけるプラスチックリサイクルの技術展望（20分）	秋保慶志 氏（J&T環境㈱ 常務執行役員、仙台事業本部長）
15:15～15:25	プラスチック資源循環法への取組みについて（10分）	野嶋諭 氏（那須塩原市、市民生活部主査）
15:25～15:35	サーキュラーエコノミーのバリューチェーン（CE-VC）設計と課題（10分）	北詰一隆 氏（TREホールディングス㈱、執行役員、経営企画本部本部長）
15:35～15:40	会場整備（5分）	
15:40～16:40	パネルディスカッション（60分）	コーディネーター 酒井伸一 氏（公財 京都高度技術研究所副所長） パネラー 上記講演者6名+大野薫 氏（那須塩原市市民生活部課長）
16:40～16:50	閉会の挨拶	酒井伸一 氏（公財 京都高度技術研究所副所長）